

# any

ars nova yamaguchi

「エニー」

autumn 2009  
Oct.—Dec.

# 70

この歌を、  
あなたの  
もとへ。

特集

mariko live 2009 in yamaguchi 「浜田音泉」

浜田真理子インタビュー



特集

03 この歌を、  
あなたのもとへ。

mariko live 2009 in yamaguchi「浜田音泉」  
浜田真理子インタビュー

ピックアップイベント

08 届いたみんなの声

山口情報芸術センター

Semitra インスタレーション展「tFont/fTime」  
フォントに注目した新しいアート展

阿部初美×松田正隆・新作演劇公演「Life On The Planet」  
近未来を舞台に作り出す、演劇の新たな可能性

中原中也記念館

企画展II「湯田温泉物語」  
湯田温泉と文学作品の関わりを探る

山口市民会館

森 麻季&横山幸雄デュオリサイタル  
天上の声の歌姫と究極のピアニストによる華麗な一夜

斉藤和義ライブツアー2009>>2010“月が昇れば”  
甘い歌声でハードにもソフトにも歌いあげる

12 any通信

- ◎アーティストボイス 佐々木幹郎(詩人)
- ◎お先に試写しました 「ウルトラミラクルラブストーリー」
- ◎いただきます ダールカレー(インド料理専門店「Shiva」)
- ◎GOOD GOODS 「中也の帽子」
- ◎My Favorite 丸尾隆一(山口情報芸術センター)

14 イベントカレンダー 10~12月  
INFORMATION

この歌を、  
あなたのもとへ。

島根を拠点に音楽活動を展開するシンガーソングライター、浜田真理子。ジャズ、ブルース、ポップス、歌謡曲など様々なエッセンスが詰まったサウンドとともに聴こえてくる、ノスタルジックな歌声と存在感のあるピアノ、情感豊かにつづられる言葉の数々。音楽ファンのみならず、多くの音楽家や俳優、映画監督たちからも厚い支持を受け、ライブには、年齢や性別を問わず、全国各地から多くの人が集まっています。

# HAMADA MARIKO

浜田真理子 HAMADA Mariko

1964年島根県生まれ。学生時代よりピアノの弾き語りの仕事をはじめ。98年、地元レーベルから1stアルバム「mariko」をリリース。わずか500枚のプレスがマスコミや音楽ファンの間で話題となり伝説に。ドキュメンタリー番組「情熱大陸」に出演し、反響を呼ぶ。廣木隆一監督映画「ヴァイブレーション」の挿入歌など多くの映画音楽を手がける。NHKドラマスペシャル「白洲次郎」の挿入歌、「国境なき医師団」のCMソング、小泉今日子(女優)の朗読とピアノの弾き語りによるライブなど、現在も島根を拠点に幅広い音楽活動を展開している。

昨年夏にYCAMで開催された「大友良英/ENSEMBLES」展のオープニングライブで、大友良英、山本精一、カヒミ・カリィらとともに出演し、山口で初めてその歌声を披露した浜田真理子。透きとおるような声が反響を呼び、今回ソロライブが実現しました。インタビューからは、ゆっくりと自分のペースで

自身や音楽と向き合いながら、丁寧に自分の音楽を届けてきた浜田真理子の真摯な姿が見えてきます。

# HAMADA MARIKO



今  
し  
な  
い  
と  
い  
け  
な  
い  
こ  
と  
を  
ち  
ゃ  
ん  
と  
し  
て  
い  
る  
と、  
ち  
ゃ  
ん  
と  
い  
い  
具  
合  
に  
な  
る

## 音楽家をめざしたのはいつ頃ですか？

大学生のときです。私は島根大学で、教育学部に通ってました。だからぼんやりと学校の先生になるのかなと思っていたのですが、そのころからジャズを好きになり始めて。ジャズマンではないけど、バンドマンとして活動している人が結構周りにいたので、そのバンドに入ってパーティなどでピアノを弾くようになり…。あとで結婚しますが、バンドでピアノを弾いている男の人と知り合っ、その人がジャズが好きで音楽のことをいろいろ教えてもらってました。でも、どうやってこの辺(島根)で本格的に勉強したらいいのか分からなくて…。今だったらインターネットも、大人用の音楽教室もあるけど、その頃はなかったの、普通に若い子が東京へあこがれを抱くのと同じように私も「卒業したら東京に出て専門学校に行こう!」、と思ってました。だから教員採用試験も受けなかったし、全然就職活動もしていなかった。親や周りからは「知り合いもないのに、東京へ行ってどうやるつもりなの?」と、怒られたり、心配されたりしましたね。

## 結局、島根にとどまったのはなぜ？

専門学校に行くにしてもすごくお金がかかるじゃないですか。自分の家はそんなに裕福でもなかったの、まずは自分でお金をためようということで、ナイトクラブでピアノの弾き語りの仕事をするようになって。そうするうちに父が病気で倒れたり、結婚もして子どももでき、離婚もしたりで、家庭の事情がいろいろ重なって結局東京に出られなくなっちゃったんです。だから最初から島根を愛し、地元をこだわって、他からの誘いには眼もくれずとかそういうことは全然ないです。むしろあの頃は「どんどん東京が遠ざかるなあ。このあと私はどうなっちゃうんだろう」と思っていましたね。でもそれを失意のうちにあきらめたり、変更するというのもものすごく嫌で。とりあえず東京に出られないのであれば、子育てをしながら手が空いたときにちょっとずつ勉強して、死ぬまでに自分が納得いけるところまでいければ

いいか、と思うことにしました。負けず嫌いなので(笑)、絶対に後悔したくなかったから。でも振り返ってみても全然嫌じゃなかった。あのときはああするしかなかったし、その中でも一生懸命やってきたし、家族の助けがないと子育てはできないので、結果的には島根にいてよかったなと。今しないといけないことをちゃんしていると、ちゃんといいい具合になるなとはつくづく思いますね。そういうふうになっていると自然と周りの人が助けてくれるので。

## 浜田さんのためにできた音楽会社「美音堂」はどういう経緯で生まれたのですか？

社長の市川君は、島根のレーベル会社から500枚限定で出した私のファーストアルバム「mariko」を東京のタワーレコードの試聴機で聴いてくれたみたいです。彼は若い時からずっとこの音楽業界にいて、元の会社では部長さんまでやっていたやり手の人。最初はライブをしないかと声をかけていただいたのですが、「東京だしいよ。そんなにたくさんライブはできないし」と断ったりして。でもお友達づきあいはしていました。それが、ある日会社をやめて、私のために新たに会社を作ると言い出して。私はまだこっち(島根)でOLもしていたので、最初は「え〜!? そんなこと急に言われても」と思いました。でも仕事も続けていいと言われ、私もライブのオファーが来ることもあってどう対処したらいいのか分からなかったし、彼はこの業界について詳しいので…。彼は彼なりに大きな会社でいるところがあったみたい。多分出だしはみんなそうなんだろうけど、本当に好きな音楽を好きな人に届けるという一番シンプルなこと、自分たちで、愛する人に愛するものを届ける仕事がやりたいと。もちろんいまそれだけではやっていけないから彼もアルバイトをしながらですが、一生懸命やってくれているので、彼の応援もすごく多いです。ずっと手伝ってくれている音響や照明の人もあるし、レコード会社やプロデューサーの方たちもなぜか儲けにならないのに応援してください。

自分たちで、  
愛する人に  
愛するものを届ける



## 浜田真理子の魅力を語る

### 「せかいで一番ちいさな海」

廣木隆一 (映画監督、主な作品「ヴァイブレータ」「余命1ヵ月の花嫁」)



浜田真理子の歌にインスパイアされて映画を作りたいと思っている。井の頭線から見た下北沢の夕暮れと、松江の山並に囲まれた鏡のように光る宍道湖と、路面電車がすれ違う音が通りに響く夜の始まりの広島と、ポルトガルの海に浮かぶ島に揺るぶどう畑が浮かんだ。ポルトガルだけ行ったことはないがなぜか歌を聞いていて、それぞれの場所の風景が浮かんだ。僕はどこにいても常に悩み、苦しみ、喜び、生きているという事を実感出来る映画にしたいと思った。ポルトガルの人たちはどんな人と出会うのだろう？

下北沢のパーではどんな会話をしているんだろう？松江の親子はどんな生活をしているんだろう？広島の高級生達はどんな夜をむかえるの？でも、どこの場所でも変わらない空があり海がある。普段の生活では忘れてしまう事がそこにはある。浜田真理子のシンプルで強い歌が登場人物の心情を包み込み、ある時は、やさしくしかり、ある時は寄り添い、ある時は歩みを止めて記憶に任せてもいいんだと、唄ってくれる、そんな映画にしたいと思った。いつも浜田真理子の歌には特定の誰かでは語れない物語を感じてしまう、きっと、その誰かは、僕自身でもあるのかもしれないけど、あなた自身の物語でもあるような感じがする。



2008年7～10月にかけて山口情報芸術センターにて開催された「大友良英/ENSEMBLES」展の関連企画として行われたライブ「songs」。浜田真理子もヴォーカルの1人として多数のミュージシャンとともに出演。写真右から大友良英、一楽儀光、ジム・オルーク、カヒミ・カリィ、浜田真理子、山本精一、Sachiko M。

その日1回きりしかないわけだから、大事にしたい

# HAMADA MARIKO

浜田真理子の魅力を語る

## 「割り切れない唄声」

住吉美紀 (NHKアナウンサー、「プロフェッショナル 仕事の流儀」番組担当)



初めて浜田真理子さんの生の唄声を聴いたときのことは、鮮明に覚えている。暗いホールの2階席から見下ろすステージに、レモンイエローのスポットライトを浴びたピアノが一台。その前に座る真理子さんは、指で優しくイントロを奏で、おもむろに唄いはじめた。息を飲んだ。その貫くような透明さに。さらっと唄っているのに、濃い。強めのリキュールでつくられた、甘いカクテルを彷彿とさせる、不思議な声・・・。

たす。ストレートな歌詞が、胸に刺さる。そのまま動けなくなり、涙は膝上の革靴にポタポタと落ちつづけた。今でも靴に残るそのシミは、わたしの「真理子初め」の記念である。その後、何度も真理子さんの唄を聴いて、毎回出る涙の理由が少しずつわかってきた。真理子さんの唄声には、甘さとドライさ、温かさと冷たさ、喜びと哀しみ、思慕とせつなさなど、相反するものたちが渾然一体となった凄みがあるのだ。そして、そうした相反するものが混じり合う、「割り切れない」こそが、人生の本質ではないか。混じり合って濁ったものが、時間と経験を経て沈殿する。きっと、その上澄みの透明な部分が、真理子さんの唄声なのだ。だから、その唄を聴く度、わたしたちは思い出す。われわれの奥深くに沈む、情動の澱の存在を。生きることのホントを。

昨年夏にYCAMで開催された「大友良英/ENSEMBLES」展のオープニングライブに浜田さんも出演されていたらしいんですが、あのときのライブや山口の印象はどうでしたか？

昨年お邪魔させていただいたときは、雰囲気すごくよくて楽しかったねと言いながら帰りました。ホールもとても良かった。山口と島根は近いから、本当はもっと私に限らずみんなが行き来したらいいのに、と思いましたね。でも実はライブのときは、びびっていたんですよ。大友さんと山本精一さんとは共演したことはあったけど、他のメンバーとは初めてだったし、カヒミ・カリィさんとは何度かお会いしていたけど、一緒に歌ったのは初めてだったので。バンドで歌手が2人というのはあまりないじゃないですか。ましてや歌姫2人なんて(笑)。でも楽しく参加させてもらって、とても面白かったです。山口のドラびでおさん、一楽儀光さんとも仲良くなれて、また何か一緒にやりましようと言われたり。

今度のYCAMでのライブはどんな曲が聴けるのでしょうか？

8月にレコーディングをしまして新しいアルバムを作っていますが、それを11月くらいに発売する予定です。山口は発売しすぐのライブになるんじゃないかな？だから早くみなさんに聴いていただけて嬉しです。今回のニューアルバムには新曲ばかりではなくライブで歌っている曲もあります。特に今回のアルバム制作にあたっては「国境なき医師団」のCMに使われた曲「ひそやかなうた」を何とかしたかったんです。もともとCD化するつもりはなかった曲なんですけど、問い合わせがすごく多くて。とても喜んでいただいた



曲なのできちんとCDにして残さないといけないと思って。それに書きためてきた曲も増えたので、それらも録音をして小品集のような形のアルバムを作ってみようということになっています。そのアルバムを持って12月は山口にお伺いします。

今回、ライブタイトルが「浜田音泉」となっていますが、なぜこのタイトルに？

霧島でライブをやったときにも「浜田音泉」というタイトルでやりました。もともと「清水音泉」というプロモーターがいて、大阪にいるときはいつもそこにお世話になっていたのですが、霧島に行く時に、せっかく温泉があるから、真似をして「浜田音泉」というタイトルにできないかな、と清水さんに聞いてつけさせてもらったんです。山口にも湯田温泉があるので、今回もじゃあ「浜田音泉」にしようということに。私は普段あまりライブをしないからライブにはいつも全国からお客さんが来られます。そうすると、そこならではの部分が見える方が面白いです。観光もしてもらいたいし、季節とか、そのときかない時間をみんなで一緒に楽しんでほしいです。観光のついでに浜田さんのライブに行こうと。だから私のブログには観光情報をよく載せています。お客様が楽しまない私も楽しくないし、風景の一部に音楽があって、おいしい食べ物がある。「そういえば浜田さんのライブに行ったよね」ぐらいのノリでいいんですよ。そのときの湿度とかお天気だとかその日1回きりしかないわけだから、大事にしたいなと思います。

浜田さんご自身は、山口では何を楽しみにしていますか？

前は夏だったので、温泉に入るのは暑かった～。だから今回は冬でちょうどいいですね。あと、いつも観光地ではお土産屋さんを回るのを楽しみにしているんです。前回の山口でも湯田温泉街の道路沿いにあるお土産屋に片っぱしから入りました。今回も楽しみにしています。これでライブがなければもっと楽しめるんだけどな(笑)。

浜田真理子の魅力を語る

## 「オンナゴコロ」

大友良英 (音楽家、浜田真理子3rdアルバム「夜も昼も」をプロデュース)



正直に白状します。実は浜田さんの歌詞がとっても怖いので、いつもココロを薄目にして聴いてます。それは彼女の歌

が怖いということではなく、オンナゴコロというのが怖いということなのかもしれません。アルバムをプロデュースする際にわたしが聴いていたのは彼女の歌詞ではなく声そのものです。彼女自身が弾くピアノの響きとの絶妙なバランスの上に成り立った、決して演出されたのではないリアルな声のゆらめきや震えです。そして、そこから生まれるどこまでも奥行きのある陰影ある世界です。そんな声のひだの中にある豊かさのようなものに、わたしはいつもココロを動かされます。人間が意味のわからない外国語の歌でも感動できるのは、きっとそう

いもの聴き取る能力が、最初から僕らにはそなわっているからです。そして浜田さんの歌には今まで聴いたことのないような最上級のそれがあるのです。オンナゴコロにだまされてはいけません。この豊かで繊細な声をどうすれば捕らえることができるのか。そのことに集中して作ったのが彼女の最高傑作(だとわたしは思っている)「夜も昼も」です。聴いてない方はぜひ聴いてみてください。多分オトコという生き物は、オンナゴコロに魅かれるのではなく、女性の持つる生命の輝きに魅かれるのだと思います。この輝きはガラス細工のように繊細ですが、でも同時にオトコなどとてもかなわないくらい驚くほど力強い。わたしにとっての浜田真理子は、そうした女性の生命の輝きそのものなのです。とっても魅力的で、でもまぶし過ぎて。だから結局は薄目にしていても僕らには勝ち目なんてないのです。

## PRESENT

ライブ「浜田音泉」のチケットや浜田真理子のCDなどをプレゼントします。

【申込方法】ご希望の方は下記のプレゼント番号を明記の上、住所・氏名・年齢・電話番号・e-mail等の連絡先、今号の「any」の感想をご記入の上、10月31日(土)までにハガキ(当日消印有効)・FAX・e-mailでご応募ください。

A 「浜田音泉」ライブチケット(ペア2組)

B CD「mariko」(1名) ※サイン入り

1998年、500枚限定でプレスされた浜田真理子1stアルバムの2002年再リリース盤。

C CD「夜も昼も」(1名) ※サイン入り

音楽家・大友良英がプロデュースした浜田真理子3rdアルバム。

D CD「うたかた」(1名) ※サイン入り

今秋リリースされたばかりの浜田真理子最新アルバム。

【あて先】〒753-0075 山口市中園町7-7 (財)山口市文化振興財団 「any vol.70 特集プレゼント」係 FAX: 083-901-2216 e-mail: any@ycfcp.or.jp ※当選の発表は、発送をもってかえさせていただきます。



## mariko live 2009 in yamaguchi

2009年12月4日(金) 19:30開演 (30分前開場) 会場:山口情報芸術センター スタジオA

【チケット情報】any会員先行予約 10月3日(土)～ 一般発売 10月10日(土)～

【料金】全席指定 前売 一般 3,000円 any会員/特別割引 2,500円 当日 3,500円

【出演】浜田真理子

関連イベント

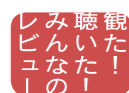
## 「湯田温泉で浜田音泉！」

2009年12月4日(金) 15:00～23:00 会場:ホテル松政

http://www.matsumasa.jp/ TEL. 083-922-2000

ライブ名「浜田音泉」にちなんで、チケットの半券を提示すると、源泉100%かけ流しの温泉をワンコインで楽しむことができます(ただしライブ当日のみ)。ライブだけではなく、湯田温泉の風情やお湯もあわせてお楽しみください。

【入浴料】100円(タオル、ボディソープ、シャンプー付)



●演劇という名の新しい体験が出来たように思います。とても大胆でいて鮮明な舞台でした。(20代女性 「PARK CITY」より) ●ライティングの空間が素敵でした。宇宙空間を浮遊しているような体感があり、全身でサウンドが楽しめました。(女性 「煙巻ヨコダンスパフォーマンス」より) ●中也のやさしさの原点のような気がした。(50代男性 「哀悼の詩」より) ●イメージしてきたのと違いましたが、映像・行動・動作・ナレーションでいろいろと想像しました。(60代女性 「PARK CITY」より)



●何度も来館して見る事が出来、よかった。同じ内容を繰り返し見ていると少しだけ見えてくる物があるように思った。(50代女性 スティーヴ・バクストン「Phantom Exhibition」より) ●話しかけたことがない学生運動だが、舞台という空間でこうやって考えるチャンスを与えてくれるのは、幸せなことだと思います。(30代女性 「僕たちの好きだった革命」より) ●声=台詞という表面的な表現よりも、裏にある喋っている人の人生そのものが表現されるのが演劇であるという考え方よくわかります。(70代男性 「劇作家・松田正隆レクチャー」より) ●大学で聞く授業とも違い映画やドラマなど身近な場面からの研究であったことが分かりやすかった。(20代女性 「劇作家・松田正隆レクチャー」より)

息づくひまもない  
ほどの場面の  
変化には驚きです。



ミュージカル「サウンド オブ ミュージック」  
世界中の人々に愛される名作「サウンド オブ ミュージック」を上演。トラップ大佐役の辰巳琢郎や修道院長役のベギー葉山など豪華キャストが出演。中でも主役のマリアを演じた中村香織の美しい歌声と深刺とした演技に観客は圧倒された様子でした。映画にはない舞台の魅力を肌で感じ、思い出深い一夜となったようです。  
©2008年11月23日 会場：山口市市民会館

会場と出演者が一体となって  
自分達も参加しているような錯覚におちました。

今夜のミュージカルは  
映画以上に  
素晴らしい。  
感動を受けました。

思いが変わった。  
詩に対しての

届いた  
みんなの声

「any」を新しい形にリニューアルして1年。  
「ピックアップイベント」ページではこれまで、  
山口情報芸術センター、中原中也記念館、山口市市民会館の  
イベントの中から、その時旬のお勧め企画を皆様にお届けしてきました。  
今回は、いままで紹介したイベントの中でも反響の大きかったものを  
取り上げ、実際にイベントに参加した方の声をお届けします。  
寄せられた多くの声の次が次の企画へとつながっています。  
これからもピックアップイベントにご注目を!

頭ではなく感じとる事で  
純粹になれた気がする。

蛙の“生命力”  
を生で感じられて、  
より詩ひとつひとつが楽しめた。



特別企画展「『歷程』と中原中也」  
中也が創刊当時から名を連ねていた詩の同人誌「歷程」と、そこに集まる若き芸術家たちにスポットを当てて紹介。そのうちの一人、蛙の詩人と呼ばれた草野心平にちなんで、本物の蛙を目の前にして詩を朗読するワークショップも開催。夏休み期間ということもあって子どもから大人までたくさんの方々が訪れました。  
©2008年7月30日～9月28日 会場：中原中也記念館

詩の世界と自然科学の世界の  
コラボレーションが  
おもしろかった。

体感できる  
作品展は楽しいです。  
またやってください。



「ミニマム インターフェース」展  
国内外8組のアーティストが参加。卓上でいくつものオブジェを自由に動かし、音と映像を操作する電子音楽「reactTable(リアクティブ)」や、観客の動きや音に反応し、生物のように伸び縮みし色が変わる建築オブジェなど、体験型の作品を多く展示。誰もが触って楽しめるということで家族連れが多く、県内のみならず全国各地や、海外からもこの展示会のために足を運んでくださいました。  
©2008年11月5日～2009年2月8日  
会場：山口情報芸術センター

案内すらインタラクティブアート  
になっていて素晴らしい。

山口情報芸術センター (YCAM)

http://www.ycam.jp/

Semitra インスタレーション展

「tFont/fTime (ティーフォント・エフタイム)」

開催中～2010年1月10日(日) 10:00～19:00

会場：スタジオB ほか

フォントに注目した新しいアート展

2003年の設立以来、ウェブデザインから、グラフィックス、ネットワーク技術を駆使したインタラクティブ作品まで、様々な領域で活躍しているクリエイター集団「Semitransparent Design(セミトランスペアレントデザイン)」。ここから生まれたアー



Semitra「フラッシュを使用しない撮影は許可されています。」(2008)

料金 | 無料

トユニット「Semitra(セミトラ)」による新作展「tFont/fTime(ティーフォント・エフタイム)」を開催します。タイトルの「tFont/fTime」とは、「時間フォント/フォント時間」をあらわし、フォント(文字書体)が時間によって変化していく過程を視覚化する試みとなっています。時間によって変わっていくフォントとは? 本展では、様々な商業ウェブサイトを、映像広告やディスプレイをはじめとした広告媒体(デジタルサイネージ)で注目される彼らのユニークなアイデアが詰まった作品を、YCAMの館内およびウェブ上で発表します。

わたしはココに注目する!

今回の展示会は実際に目の前で体験するだけではなく、ウェブサイトから作品に変化を加えることもできます。ぜひアクセスしてみてください。 <http://semitra.ycam.jp/>

阿部初美×松田正隆・新作演劇公演

「Life On The Planet」

2009年12月20日(日) 14:00開演

会場：スタジオA



阿部初美演出作品「更地」(2009) photo: 富田平

近未来を舞台に作り出す、  
演劇の新たな可能性

この夏、YCAM初の演劇滞在制作・発表を行った劇作家・演出家の松田正隆。常に新しい演劇表現の可能性を探り、2007年には、YCAMでも実験的なワークショップを行った演出家の阿部初美。この2人の共同作業による新作演劇がYCAMに登場します。「地球環境と人間、自然と文明」のテーマを背景にした今回の作品は、近未来の世界を想定し、現代の地球温暖化や大気・放射能汚染などの人間を取り巻く環境や人間の存在について問いかけます。またこの作品では、完全な戯曲を劇作家が書き下

ろし、演出家が舞台化するという既成の方法ではなく、劇作家による不完全なテキストの断片から、演出家、キャスト達が一つの作品世界を作り上げるという、新しいコラボレーションの方法に挑戦。現代と未来、時間軸が多層に交錯する不思議なフィクションの世界は必見です。

わたしはココに注目する!

公演に先立ち、本作の見どころやテーマについてゲストが語るトークイベントを12/5に開催! これを聴くことで、作品の世界をもっと深く知ることができます。

チケット情報 any会員先行予約 11月1日(日)～

一般発売 11月8日(日)～

料金 全席自由 前売 一般 2,300円 any会員/特別割引 1,800円 25歳以下 1,500円  
当日 2,800円

[テキスト] 松田正隆(マレピトの会) [演出] 阿部初美 [ドラマトゥルク] 長島 確 [出演] 野村昇史、谷川清美 ほか

■特別割引: 青少年(18歳未満)、シニア(65歳以上)、障がい者及び同行の介護者1名が対象。  
■いずれの公演も当日券は各種割引の対象外となります。  
■特に記載のない場合、開演は開演の30分前です。  
■特に記載のない場合、未就学時入場不可。託児サービスについては、お問い合わせください。

「東野祥子  
ダンスワークショップ」



ダンスイベントに先駆けて開催されたワークショップには、小学生から大人まで約20名が参加しました。講師のダンサー東野祥子さんのレッスンは、始めのストレッチからかなりハード。でも、みなさん一生懸命ついていっていました。その他のトレーニングでも、最初はうまくいかなくても何度も繰り返していくうちに、それぞれのオリジナリティが表れ、おもしろい動きに。最後には、音と舞台照明の中で、3人1組の即興パフォーマンスを発表し、たっぷり体を動かした2日間になりました。「コンテンポラリーダンスのことが少しわかった気がする」「初めは恥ずかしかったけど、新しい体験をした」など、体にも頭にも刺激的な「ダンス」体験となったようです。

旅するYCAM

大友良英  
「ENSEMBLES 09」



[without records] (原宿Vacant, 7/4-8/9) photo: Eiji Ina

昨年、YCAM 5周年記念事業の一つとして開催された「大友良英/ENSEMBLES」展。フリージャズやノイズミュージック、電子音楽から映画音楽やポップスまで音楽の領域で幅広く活動する音楽家・大友良英が、美術家や技術者、音楽家らとアンサンブルを組み大規模なアート展に挑みました。「多数の人によって成り立つアンサンブル」が、さらに複数形になっていくというコンセプトのもとに展開した本展は、その続編として、舞台を東京や京都に移し、さらなる広がりをみせています。都会の真ん中にとり残された廃校の屋上、若いアーティストが集う原宿の空きビル、ライブハウスや路地裏のギャラリーなど、街中のあらゆる場所で展開する展示やライブパフォーマンス。様々なジャンルの人々と次々に交わり合いながら壮大なアンサンブルを奏でる大友良英の企てはこの先もまだ続きます。

## 中原中也記念館

http://www.chuyakan.jp/

企画展Ⅱ

### 「湯田温泉物語」

開催中～2009年12月13日(日)

### 湯田温泉と文学作品の関わりを探る



戦前の湯田温泉街の風景

温泉と文学には深い関わりがあります。温泉を舞台とした作品もあれば、作家が温泉に留まり、そこで生み出された作品もあります。600年を超える歴史をもつ湯田温泉もまた文学作品の母体となってきました。室町時代に山口に滞在した明の使節・趙秩の「山口十境詩」をはじめ、七脚落ちの際、井上馨の「何遠亭」に身を寄せた三条実美の和歌や、幾度となく湯田に遊び、前町に風来居を構えた種田山頭火の俳句などが有名ですが、他にも様々な作品がつくられています。そして中原中也。中也は15歳の時、合同歌集「末黒野」に「温泉集」と題して自作の短歌を収めています。この展示では、湯田温泉の歴史を一方に置きながら、中也や山頭火に留まらず、この地で生み出された文学作品をさらに発掘し、紹介することによって、湯田温泉と文学との関わりを探ります。

#### わたしはココに注目する!

山口にお住まいの方にはすでにおなじみの湯田温泉ですが、文学という視点から見ると、また違った姿が現れます。さあ、みなさんご一緒に湯田温泉再発見の旅に出かけませんか?

入館料 一般 310円(262円) / 大学生 210円(157円) / 小中高生 150円(105円)  
※70才以上は無料 ※( )内は20人以上団体料金  
※12/28～1/4は休館

# 検定 中 也

これであなたも中也通?!

現在読むことのできる、中也が作った最初の短歌は、雑誌「婦人画報」の1920(大正9)年2月号短歌投稿欄に掲載された、「筆」という課題を詠んだ作品です。中也が小学6年生の時でした。母・フクと一緒に投稿したのに、中也の作品だけが掲載されたそうです。父・謙助も和歌を作ったり、時には短編小説なども書いていました。どちらかというと文学好きな両親の様子を真似てなのか、中也は小学3、4年の頃から短歌を作っていたといえます。フクの回想「私の上に降る雪は」の本の中には、中也が短歌を作っていた頃の家族の様子も、詳細に描かれています。さて、中也の作った短歌は字余りが多かったそうですが、それを読んで両親は中也にどんな反応をしていたのでしょうか。

- 1 特に感想を伝えることもなく、干渉しなかった。
- 2 誉めて、たくさん短歌を書くように勧めた。
- 3 おかしいと、2人でけなした。

答えは14ページ

## 山口市民会館

http://www.c-able.ne.jp/~shiminkk/

### 森 麻季 & 横山幸雄 デュオリサイタル

2009年10月22日(木) 18:30開演  
会場:大ホール



©Yuji Hori

©SMU

### 天上の声の歌姫と 究極のピアニストによる華麗な一夜

類稀なる歌唱技術と透明感のある美声で人々を魅了するオペラ歌手の森麻季。これまでも国内外のオーケストラや三大テノールのカレーラス、パヴァロッチェなどと共演してきました。今回、彼女がデュオを組むのは、ショパン国際コンクールにおいて、日本人として最年少入賞の快挙以来、人気実力ともに常に音楽界をリードし続けているピアニストの横山幸雄。彼は後進の指導にも熱心で、ヴァン・クライバーン国際ピアノコンクールで優勝した話題のピアニスト・辻井伸行の師匠でもあります。

そんなクラシック界の第一線で活躍し続ける2人はこれまでも各地で息のあった演奏を続け、絶賛されてきました。彼らが山口県でリサイタルを行うのは5年ぶり。表現者として柔軟な感性を持ちあわせ、2人の溜め息の出るような美しいデュオをお聴き逃しなく!

#### わたしはココに注目する!

今回は、日本やイタリアなど様々な国の歌曲で構成されたプログラムになっています。世界を旅しているような気分でごコンサートをお楽しみください。

チケット情報 発売中  
料金 全席指定 前売 一般 S席 3,500円/A席 3,000円 ※any会員は各300円引 ※大学生以下は各500円引  
当日 S席 4,000円/A席 3,500円  
※割引は、山口市民会館および山口情報芸術センター窓口のみの取り扱い。

[出演] 森 麻季(ソプラノ)、横山幸雄(ピアノ)  
[曲目] ヘンデル: オンブラ・マイフ、涙の流れるままに / プッチーニ: 私の愛しいおとうさん / 越谷達之助: 初恋 / 山田耕筰: からたちの花 ほか  
※託児あり。10月9日(金)までに山口市民会館へ要申込。 [問い合わせ] やまぐち市民文化の会(山口市民会館内) TEL.083-923-1000

## 斉藤和義ライブツアー2009>>2010 “月が昇れば”

2009年11月8日(日) 17:00開演  
会場:大ホール

### 甘い歌声でハードにもソフトにも歌いあげる



シンガーソングライターとして数々のヒット曲を生み出し、活躍する斉藤和義。「歩いて帰ろう」や「歌うたいのバラッド」は、現在でも様々なアーティスト、そしてファンに愛される楽曲となっています。ときにバンドスタイル、ときに弾き語り

でデビューして16年。ますます円熟味あふれる斉藤和義の魅力を存分にお楽しみください。

#### わたしはココに注目する!

一見、無口で硬派に見える斉藤和義の素顔はとってもシャイ。ステージでの緊張感あふれるパフォーマンスや演奏とは裏腹に、MCではゆるい脱力系な口調で場を和ませます。

#### 斉藤和義さんからのメッセージ

「そういえば周南市ではライブをしたことはあったけど、山口市でははじめて、お初? …瑠璃光寺五重塔にでも昇ってみたいな。11月、どうぞお楽しみに!」 斉藤和義

チケット情報 発売中  
料金 全席指定 前売 一般 5,500円 any会員 5,000円  
※3歳未満入場不可、3歳以上有料 ※託児なし

[出演] 斉藤和義

- いずれの公演も当日券は各種割引の対象外となります。
- 特に記載のない場合、開場は開演の30分前です。
- 特に記載のない場合、未就学児入場不可。託児サービスについては、お問い合わせください。

書物は、書物の在る処。  
インキは、インキの在る処。

私は、何にも驚かぬ。  
却て、物が私に驚く。

私はもはや、眠くはならぬ。  
私の背後に、夜空はイづてる。

書物は、書物の在る処。  
インキは、インキの在る処。

しづかに、しづかに、夜はくだち、  
得知れぬ、悩みに、私は眠らぬ。

書物は、書物の在る処。  
インキは、インキの在る処。

#### 「白紙」

書物は、書物の在る処。  
インキは、インキの在る処。

私は、何にも驚かぬ。  
却て、物が私に驚く。

私はもはや、眠くはならぬ。  
私の背後に、夜空はイづてる。

書物は、書物の在る処。  
インキは、インキの在る処。

しづかに、しづかに、夜はくだち、  
得知れぬ、悩みに、私は眠らぬ。

書物は、書物の在る処。  
インキは、インキの在る処。

「解説コメント」  
この詩は、雑誌「歴史」通巻2号(1936(昭和11)年3月)に掲載されました。タイトルにある「ブランク」というふりがなは、フランス語「blanc」で「白」という意味。それぞれが在るべきところにきちんと収まるなか、私の思考だけが居所を得ず、さまよっているかのような夜の一室。そして、そんな私の不調和な様子に、「書物」や「インキ」が驚きのまなざしを向けています。  
5連目の「夜はくだち」とは、「落ち」と書き、夜が更けること。しずかな夜更けと動かぬ物々の一方で、「私」の思考ばかりが巡ります。この詩の制作時期ははっきりと分かっていますが、もの思うさまや、何でもないはずの部屋の細部が妙に気になるのであつたらしく、夜の長さが感じられるのではないのでしょうか。

●演劇の舞台でスタンディングオベーションを初めて見ました。悪とか善とか正義とか大衆とか、この歳になってふりかかってくる過酷な社会を最近見て、それと相まってすごく心にきました。(10代女性 「僕たちの好きだった革命」より)  
●いつもは知性やテクノロジーに訴えるものが多い気がしますが、今回は直に感覚に訴えかけられるものでした。(『煙草ヨーコダンスパフォーマンス』より)  
●今の人間の感覚のするとき、鈍さが出ていように思う。(40代男性 「第14回中原中也賞」より)



# any通信

穏やかな時間を  
ゆったりと過ごしてみたり、  
時には外に刺激を求めて  
旅に出てみたり。



今年も新しいサポートスタッフを迎えました。

毎年6月に募集している登録制のアルバイト「サポートスタッフ(サボスタ)」。今年も新規で60名ほどの登録がありました。現在、総勢約270名。大学生から社会人まで幅広い年齢と経験の方が登録しています。今期は新しい試みとして、教育普及専門のサボスタも募集。何度かの研修会を経て、すでにこの夏行ったワークショップや、バックステージツアーなどの現場で活躍してくれています。



サポートスタッフ説明会の様子

さまざまなイベントの舞台裏にはサボスタの影あり。まさに、あらゆるところで私たちをサポートして(支えて)くれる存在なのです。今後、イベントに足を運ばれた際には、オレンジ色の名札をつけた彼らの活躍にもご注目。

昨年開催のアートプロジェクトが  
サインデザイン賞を受賞

昨年11～12月にかけて湯田温泉の街を舞台に行われた「YUDA ART PROJECT」が、この度サインデザイン賞(SDA)の最優秀賞を受賞しました。「YUDA ART PROJECT」は、街中に3組のアーティストの作品が展示され、観客は街をめぐりながらそれらを鑑賞・体験するというアートプロジェクト。開催中は、このプロジェクトのために制作された「湯」の文字のロゴ



デザインが観客を誘導する案内板や地図、ポスターなどに使われ、街全体をにぎやかに飾りました。特にユニークだったのは山口の夏の風物詩「ちょうちん祭り」を意識して作られた提灯による看板。普段とは違う街の雰囲気を出し、イベントを盛り上げるのに貢献したこれらのサインデザインが高く評価されて、今回の受賞につながったようです。ちなみに同じロゴがあしらわれた「オリジナルてぬぐい」はまだYCAMで販売中。買い逃した方はこの機会にぜひご購入を!!

## ARTIST VOICE

アーティスト  
ボイス

佐々木幹郎 (詩人)

詩人であり、中也研究者でもあり、また中也賞の審査員も務めておられる佐々木幹郎さん。当然のことながらご自身にとって中原中也は切っても切り離せない存在…。だからこそ、佐々木さんにとって、中原中也のふるさとここ山口は、特別な場所だと言えます。そんな佐々木さんの心にはどんな山口の風景がうつっているのでしょうか?

水鳥が飛ぶ町、山口。



湯田温泉を最初に訪ねたのは、いまから30年以上前のこと。山口の町を見守るような周囲の山々。緑豊かな榎野川の流れ。水鳥が飛ぶ町。おお、ここが中原中也の故郷か。まさに、わたしは近代詩のなかの歌の発祥の現場にいるのだと思った。

その後、中原中也記念館が出来て、「中原中也の会」が生まれた。「新編中原中也全

集」を編集していたときは、頻りに資料調べで山口へ。中也生誕百周年の2007年には、わたしが顧問をしている東京芸大の音楽集団「VOICE SPACE」と朗読女優の小口ゆいさんと組んで、朗読劇「子守唄よ」(脚本・早坂牧子)を作り、演出をした。中也の詩11篇に中村裕美作曲の美しい作品が生まれた。山口公演では平川小学校の子供たちも合唱曲に参加し、会場にすずり泣きの声があった。

その「VOICE SPACE」のCDをいま作っている。これも今夏、山口で録音した。中也の詩は、山口の空気のなかで歌うのが一番いい。

中原中也生誕百年祭  
朗読劇「子守唄よ」  
—中原中也をめぐる声と音楽のファンタジー—  
2007年10月8日 会場:山口情報芸術センター



photo:大西成明

中原中也生誕百年を記念して行われ、佐々木幹郎が監督を務めた朗読劇。中也の母フクに扮する朗読女優・小口ゆいが、音楽集団「VOICE SPACE」(東京芸術大学現代詩研究会)とともに中也の詩や日記、母に宛てた書簡などを、映像や音楽にあわせて朗読。このとき平川小学校合唱団との共演も話題に。また東京公演も行われ、高い評価を得た舞台となった。このときに作った楽曲や新曲をこの夏に山口で録音。今秋CDとして発売予定。

佐々木幹郎 SASAKI Mikio

詩人。1947年奈良生まれ。2002～07年、東京芸術大学大学院音楽文芸非常勤講師。詩集に「蜂蜜採り」(書肆山田、高見順賞)、「悲歌が生まれるまで」(思潮社)など。評論・エッセイ集に「中原中也」(筑摩書房、サントリー学芸賞)、「アジア海道紀行」(みすず書房、読売文学賞)、「人形記」(淡交社)など。編著に「新編中原中也全集」全5巻・別巻1(角川書店)。現在「中原中也の会」会長。

お先に  
試写  
しました



「ウルトラミラクルラブストーリー」

(2009年/日本/120分/カラー)

[監督]横浜聡子 [音楽]大友良英 [出演]松山ケンイチ、麻生久美子、ノゾエ征爾、ARATA

一面に広がる田んぼを背景に、人気俳優・松山ケンイチがハイテンションで駆け回り、時に奇声をあげる。一方で、近年の日本映画にかかせない存在、麻生久美子が真逆のテンションで淡々とした佇まいをみせる。果たして、この2人の間にどんなラブストーリーが繰り広げられるのか?

これは世の中の多くの人が思い描くような、甘かったり、せつなかったり、とびきりのハッピーエンドだったり、涙が止まらなかったり…というようなラブストーリーではないかもしれない。しかし、これはまぎれもなく、タイトルどおりのラブストーリーだ。劇中の奇想天外とも言える、おおよその常識では考えられないような出来事は、科学的、生物学的、常識的に

矛盾していようが、時間の経過とともに、そんなことにとられることもなくなっていく。そして、後半にむかって、ますます物語はその威力を増していき、特にラストシーンには、ただただ、あっけにとられるばかり。ここ数年内で観た映画の中で一番、眼が点になったラストシーンだった(いい意味で)。

松富淑香 (YCAM シネマ担当)

2009年10月23日(金) 13:30～/19:00～  
24日(土) 13:30～/16:30～  
25日(日) 13:30～/16:30～  
会場:山口情報芸術センター スタジオC  
[料金]一般1,200円 any会員/学生1,000円  
ジュニア(18歳未満)/シニア(65歳以上)  
障がい者/介護の同行者1名800円

「ウルトラミラクルラブストーリー」作品紹介

舞台は青森。この地で農業をしながら暮らしている陽人(松山ケンイチ)は、子どものような青年。そんな彼が、恋人を事故で亡くし東京からやって来た保育士の町子先生(麻生久美子)のことを好きになった。「町子先生が好き!」その想いと行き過ぎた行動は、ただ彼女を戸惑わせるだけだった。そんなある日、彼の身体にある変化が起き、あり得ない出来事が続いていく…。

2007年に自主映画「ジャーマン+雨」で日本映画界に流星のごとく現れた横浜聡子監督の最新作。昨年、YCAMで大規模な展覧会を行い、好評を博した大友良英が音楽を手がける。



My Favorite

山口ケーブルテレビで放送中の「YCAM.tv」から生まれたYCAM初のオリジナルキャラ「山園七」ちゃん。YCAMが取り組むアートやパフォーマンスの、ちょっと深い所まで案内してくれるガイドさんです!今や、あらゆる概念や感情までも擬人化される世の中で、七ちゃんは正当派キャラと言えるでしょう!

丸尾隆一 (山口情報芸術センター)



いただきます



ダールカレー

850円(税込)

※写真奥はサダナン(350円)

北インド地方のベーシックカレー

北インド地方の家庭でよく食べられていて、このインド人コックさんたちも大好きという「ダールカレー」。ダールとは豆の意味で、その名の通り数種類の豆が野菜と一緒に煮込まれたカレーのこと。どんなものかとさっそく食べてみると、しっかりと煮込まれた豆に、野菜の甘みや酸み、苦みが加わり、さらにスパイスな香りもブレンドされ、とっても濃厚。う〜ん、豆の粒粒感もたまりませんなあ。深みがあって毎日でも食べたいくなる飽きのこないお味です。そんなカレーと一緒に食べたいのは「ナン」。シバには16種類のナンがありますが、一番プレーンなタイプの「サダナン」がオススメ。どんなカレーにもあいますよ!

(any会員限定の特典あり)

インド料理専門店「Shiva(シバ)」

山口市糸米2-7-45 TEL.083-932-4802

営業時間:11:00～23:00 年中無休

## GOOD GOODS



「中也の帽子」

これをかぶればあなたも中也に!?

中原中也の肖像写真といえば、帽子をかぶった18歳のときのものが有名です。中也はお釜帽子をわざと中に折込み、高さを低くしてかぶっていて、彼の生きていた大正から昭和にかけての時代には、こんなふうにしなやかな形をくずしたかぶり方が流行したそうです。中也が当時愛用していた帽子は現存していないので、実際の素材や大きさなど正確なところは分かっていませんが、写真をもとに中也の帽子を再現。受注生産なので完成には2～5カ月かかりますが、職人が1個ずつ丁寧に作る1点もの。ご希望の方は中原中也記念館の受付で実際に見本をかぶってサイズをお確かめの上ご注文ください。

価格:19,000円(税込) ※送料別途  
色:黒・茶 ※兎の毛(オーストラリア産)を使用  
サイズ:M・L・LL

「みんぱく」  
「あなた」  
「の」

◎とても考えさせられる芝居でした。平和すぎて、言えることが言えない世の中(日本)になってしまったような気がしています。(50代男性「僕たちの好きだった革命」より)  
◎広島について真摯にその時間性や空間の中における魂のようなものを感じようとした作品であると思いました。  
◎普段の見慣れた風景であるがどこか違うということが、舞台の中でうずまき、静かに死者を意識することができました。(20代男性「PARK CITY」より)  
◎ヨーコさんの動きの凄さに圧倒されました。ダンサーを生で見られるのはとても刺激的です。(40代女性「煙巻ヨーコダンスパフォーマンス」より)

「みんぱく」  
「あなた」  
「の」

◎松田さんの世界観が垣間見れてとても良かったです。考え方の違いや、異なった視点からの考案などで、様々な受け取り方があるのだなと思いました。(20代男性「劇作家・松田正隆レクチャー」より)  
◎芸術センターとしてこのようなイベントをするのは賛否両論あると思うが、芸術とは何かを考える上で面白い試みだと思う。単純にイベントとしては文句なく楽しかった。(「煙巻ヨーコダンスパフォーマンス」より)

# 10 October

# 11 November

# 12 December

掲載内容は2009年9月1日現在のものです。変更の場合がありますので、ご了承ください。

山口情報芸術センター (YCAM) http://www.ycam.jp/ ※年末年始のお休み12/29~1/3	開催中	※10/26~11/6はお休み	~2010/1/10
	👉 Semitra インスタレーション展「tFont/fTime」(本誌P9参照)		
山口市民会館 http://www.c-able.ne.jp/~shiminkk/ ※年末年始のお休み12/29~1/3	1	※10/26~11/6はお休み	~2010/1/31
	👉 sound tectonics #8 渋谷慶一郎+evala 新作サウンドインスタレーション		
中原中也記念館 http://www.chuyakan.jp/ ※年末年始のお休み12/28~1/4	開催中		~2010/2/7
	👉 常設テーマ展示「哀悼の詩—愛するものが死んだ時には」		
山口情報芸術センター (YCAM)	開催中		~2010/4/18
	👉 企画展Ⅱ「湯田温泉物語」(本誌P10参照)		

[マーク説明] 🖱️ 体験する 🗨️ 参加する 🎧 聴く 👁️ 観る

## INFORMATION

### ■公演チケットのお求めについて

山口市文化振興財団が主催・共催する公演チケットは以下の方法にてご予約・ご購入ください。

### 予約方法

**インターネット** 山口市文化振興財団ホームページ (要事前登録・24時間受付)

**http://www.ycfcp.or.jp/**

※any会員の方は先行予約初日の10:00より、一般の方はプレイガイド発売日の10:00より受付開始。



**電話** チケットインフォメーション (10:00~19:00 ※火曜休館・祝日の場合は翌日)

**TEL. 083-920-6111**

**窓口** チケットインフォメーション (10:00~19:00 ※火曜休館・祝日の場合は翌日)

### 山口情報芸術センター

※先行予約初日はインターネットまたはお電話のみの受付となり、窓口のご利用は翌日からとなります。

### 支払方法

**クレジットカード** インターネット・電話でチケット予約された際に利用いただけます。

チケットのお受け取りはお近くのセブンイレブンまたは山口情報芸術センターにお越しください。

**セブンイレブン** インターネット・電話でチケット予約された際に利用いただけます。

お近くのセブンイレブンでお支払いいただけます。チケットはその場でお受け取りください。

**窓口** ※上記予約方法「窓口」参照

### ■託児サービスについて

山口市文化振興財団では託児サービスを行っています。

※おもちゃ、おむつ、着替え等必要なものはご持参ください。お子様の食事は事前に済ませておいてください。

### 公演開催時

[対象] 0才(6ヶ月)以上

[料金] 1人につき500円、  
2人目以降は1人につき300円

[時間] 開演の30分前から終演後30分まで

[申込方法] 公演日の1週間前までに左記チケットインフォメーションまたは山口情報芸術センターにてお申し込みください。

※公演によっては行わない場合もございます。事前にお問い合わせください。

### 山口情報芸術センター キッズスペース

[対象] 1才以上

[料金] 1人につき30分150円

[時間] 13:00~17:00 1回2時間まで  
(山口市立中央図書館休館日を除く)

[申込方法] 当日、山口情報芸術センターにてお申し込みください。満員の際は順番制となります。

### any 会員募集!

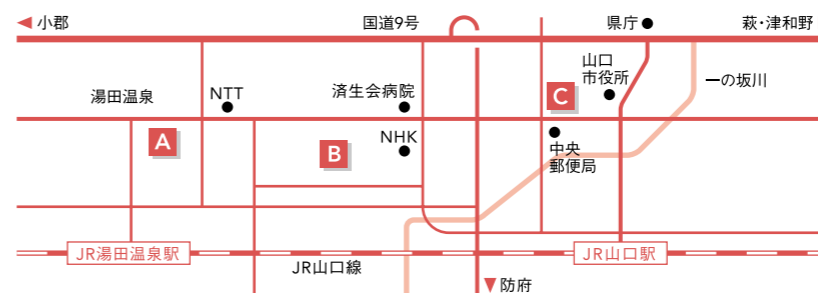
※入会方法等、詳しくはお問い合わせください。

any会員は、山口情報芸術センターや山口市民会館などで行われる財団主催・共催の公演や展示、ワークショップ等の情報をいち早くお知らせし、楽しんでいただくための友の会です。公演のチケットが一般の方よりも安く、早く購入できるなどの特典があります。

[年会費] 1,500円+入会金500円 ※会員期間内に更新される場合、入会金は不要です。

[会員期間] 入会日から翌年の入会月末まで

[会員特典] チケットの先行予約および割引購入(公演によっては適用されないものもあります)、情報誌の無料送付、YCAMシネマ・中原中也記念館招待券プレゼントなど



財団法人 **山口市文化振興財団**  
Yamaguchi City Foundation for Cultural Promotion  
〒753-0075 山口市中園町7-7(山口情報芸術センター内)  
TEL. 083-901-2222 / FAX. 083-901-2216  
http://www.ycfcp.or.jp/ zaidan-info@ycfcp.or.jp

### 編集後記

特集の浜田真理子さん取材のため、島根県立美術館へ。そこには顔ハメ額縁があって、茶目っ気たっぷりの真理子さんと一緒にモノリザのように顔をはめて写真を撮りました。どんな写真かは、真理子さんのブログをご覧ください。[M.M]

今号の編集時期は夏真っ盛り。私の夏の思い出と言えば浴衣を新調したことです。不器用な私はまだ帯がうまく結べませんが、気持ちで凜となります。次は着物にもチャレンジしたいと思う今日この頃。[M.D]

### A 中原中也記念館

〒753-0056 山口市湯田温泉1-11-21  
TEL. 083-932-6430 / FAX. 083-932-6431  
[開館時間] 9:00~18:00(入館は17:30まで) [5~10月]  
9:00~17:00(入館は16:30まで) [11~4月]  
[休館日] 月曜(祝祭日の場合は翌日)、毎月最終火曜(変更あり)、年末年始  
http://www.chuyakan.jp/ chuyakan@c-able.ne.jp

### B 山口情報芸術センター(YCAM)

〒753-0075 山口市中園町7-7  
TEL. 083-901-2222 / FAX. 083-901-2216  
[開館時間] 10:00~20:00(夜間イベントのある日は22:00まで)  
[休館日] 火曜(祝日の場合は翌日)、年末年始  
http://www.ycam.jp/ information@ycam.jp

### C 山口市民会館

〒753-0074 山口市中央2-5-1  
TEL. 083-923-1000 / FAX. 083-928-8488  
[開館時間] 8:30~17:15 [休館日] 年末年始  
http://www.c-able.ne.jp/~shiminkk/ shiminkk@c-able.ne.jp

検定 中 也  
A. 3. おかしいと、2人でけなした。(両親は、文学が嫌いではありませんでした。中、中也が文学の道に進むのを望まず、大学を出て勤めることを願っていました。)

観 覧 記 録  
レ ム ニ ャ  
の !

◎小さな記念館ですが、テーマを掲げ、3つのセクションに分け、中、中という人間を様々な時代から、角度から見つめるという視点が伝わっておもしろかったです。  
(20代女性 「月光とメルヘン」より)  
◎演劇とはセリフで全てを伝えるのではないということ。舞台上に立った役者のいろんなことに注意しつつ、次回のお芝居を楽しみに・・・(劇作家・松田正隆レクチャー)より  
◎(展示品のなかで)子ども向け雑誌の現代的なセンスに驚いた。(50代女性 「月光とメルヘン」より)



OTOMO YOSHIHIDE ORCHESTRA  
in THEATRE COCOON, TOKYO



mariko live 2009 in yamaguchi

浜田音泉

財団法人 山口市文化振興財団  
Yamaguchi City Foundation for Cultural Promotion

